

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 2月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471100986		
法人名	株式会社アーバン・ケア		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	広島県尾道市高須町3146 (電話) 0848 (55) 1355		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3471100986-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年2月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

東尾道公園に面し、いつも子供の明るい声が聞こえる環境で、気候の良い時期は、公園に散歩に出かけ、地域の人と触れ合いを持つことができる。又、グループホームの5分圏内に、色々なお店が立ち並び買物しやすい環境でもある。尾道市で二番目に開設したグループホームで、スタッフの離職率が低いため、介護経験の長い職員がなじみの関係を築き、温かい家庭的な雰囲気の中、変わらぬケアの継続ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者はリビングで過ごす時間が長く、利用者のペースで過ごせるように職員は配慮し、ゆったりと過ごしている。事業所内での研修体制の充実や事業所が目指すべき方針が明確化されている。個別ケアについて、職員間で話し合いを行い、個々の想いや要望を汲み取り、希望（外食、外出など）を叶える取り組みがなされている。利用者も自分の居場所、役割（洗濯物の手伝い、食後の片付けなど）があり、心休まり穏やかに生活されている。職員同士が協力し合う環境でもあり、職場環境が良いことから、勤続年数の長い職員が多数いて、馴染みの職員が関わることにより、利用者と家族との信頼関係の構築が図られている。今後も、利用者・職員が活気に溢れ、自発的に活動できる環境づくりと、利用者の笑顔の一つでも増やす取り組みに力を入れて行きたいと考えている。家庭的な雰囲気であり、利用者の表情から安心して生活されているのが伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づき、管理者・スタッフとも、思いを共有しつつ、日々の介護にあたって。又、半月ごとに、各ユニットでその時に必要と思われる達成目標を決め、取り組んでいる。	年1回、代表者から、事業所としての目指すべき方向性の話がある。半年毎に、地域状況や利用者の状況、各職員の意見を取り入れ、各ユニット毎の目標を設定している。なお、職員個々の個人目標が毎年設定されている。職員は、理念を念頭に置き、日々、実践することを心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年、地域の行事には案内をしていただき、出来る限り参加し、交流を深めている。とんど等。また、慣れ親しんだ地域の喫茶店などにも、スタッフがマンツーマンで外出支援をしている。	町内行事（とんど祭り、夏祭りなど）に参加している。参加時には、専用の席が設けられるなどの配慮があり、地域の方の協力がある。今後、気候が良くなれば、地域のサロンへ出掛ける準備をしている。介護予防事業の一環として、事業所を開放し、地域包括支援センター主催の”リハビリ体操”を、昨年（H28年）から実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	朝の散歩時等、近所の人と挨拶を交わし、地元中学生の体験学習も、毎年受け入れている。また、物品購入も近隣より購入できるものは、そちらを利用し、情報交換の場となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の時に議題として取り上げ、話し合いをし、サービス向上の貴重な意見として活かしている。	家族の参加を増やす取組みとして、2カ月に1回、家族会を兼ねての実施や会場として近くの喫茶店を利用し、より多くの家族の参加を促している。毎回、開催時にはテーマを決めて取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	高齢者福祉課には、頻りに電話や直接出向くなどして、色々と相談し、指導いただいている。	出向いたり、電話連絡での問い合わせなど、随時連携を図っている。地域包括支援センターの職員からは、直接、利用相談を受けることがある。市から相談委員派遣事業などの協力依頼を受けることが多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員は身体拘束の禁止、又その対象となる具体的な行為は施設内研修などを積み、周知徹底している。	適切なケアにより、今のところ身体拘束をする事例が無い状況である。安全確認のため、玄関ホールおよび利用者の状況により、居室内にセンサーチャイムを活用している。研修などで職員は正しく理解し、身体拘束を行わないケアが当たり前という認識が徹底されている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待防止法についての研修に参加し、それを施設内研修の議題に取り上げ、話し合いを徹底している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	家族・地域の方にも案内し、権利擁護について詳しい方（講師）をお呼びして、勉強会を開いた。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には契約書に沿って説明し、その場で理解、納得していただくようにしている。十分説明を行った上で、納得の上で承諾書も頂いている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	市からの相談委員派遣事業にも協力し、第三者を迎えることで、外部へ苦情など表せる機会作りをしている。	利用時に、本人および家族の意向を把握したり、面会時などに、家族の生の声を聴くように努力されている。家族より、職員の名前が分からないとの意見を受け、1階玄関ホールに、職員の名前入り顔写真を掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面接週間を持ち、個人的に意見・職場での不満等、直接に聞く機会を設けている。	“職員同士が協力し合い、利用者のケアを充実したい”基本方針のもと、職員間でのコミュニケーションは日常的にされ、話しやすい環境である。年1回、個別面談を実施し、資格取得のための勤務体制等の就業環境の整備にも力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談での話を基に、働きやすい職場作りを常に考え、皆が長く働ける職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会及び講演会の研修費は会社が負担し、職員のスキルアップを促している。研修日は出勤日とし、勉強内容をレポート及び社内会議で他の職員にも報告している。介護で不安に思う事があれば、外部より講師を招いて、全員が学ぶ場を積極的に作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営者は、近隣の同業者と交流をもち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族や本人との面接の機会を持ち、色々な思いを聞かせていただき、話しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居決定までには来所又は電話により、家族が納得できるまで相談窓口を設定し、不安を抱えたままの契約に、至らぬようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当グループホームを家族が希望しても、面談の結果をふまえ、入所より在宅が適当であると感じた場合、家族の介護負担も軽減する支援方法を提案している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>スタッフが時には子供になり、時には親になり、入居者と喜怒哀楽を共にし、日々の話の中で、人生の先輩より学ぶことが多々あり、それが働いている楽しさでもある。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者ご家族とスタッフは、家族的雰囲気でも話し合える関係作りが出来ているが、全ての家族がそうとは言えない。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>親しい方との面接や電話なども、自由にできるように支援している。時には、ドライブで自宅の近所に行くなどしている。</p>	<p>年始には親しい方に年賀状を送付する支援をしている。家族と相談しながら、協力を頂き、外出・外食などの要望に応じている。以前の友人・知人などの訪問もある。今後、気候が良くなれば、地域のサロンへ出掛ける準備をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しないよう、リビングの席並びなど、何度も検討を重ね、入居者同士のトラブルを避け、楽しく過ごせるような椅子の配置にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了された方の家族からのボランティアの申し出がある等、関わりは継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望・意向の把握に努めようと努力しているが、なかなか思いをくみ取ってあげることが出来ない方もおり、検討課題である。	日々の関わりのなかで、要望を把握できるように努めている。言葉や行動など些細なことを「個別記録」に記載し、確認している。本人が今、何を感じているかを推測し、楽しいことや遣りたいことが実現できるように、職員間で情報共有しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活環境を極力変えたくない為、馴染みの物を居室に入れたり、生活歴についても聞き、対応に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の心身状態に合わせ、入居者のペースに合わせた生活を支援しているが、まだまだ、有する力を全員が発揮できていない現状にある。もう少し、奥深く支援する必要性を感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングを基本に、家族・スタッフで話し合い、ケアプランの作成をしているが、本人の希望を聴き取る事が難しく、日々の対応で、知り得た情報からの思いを酌んでの介護計画となっている。</p>	<p>本人をよく理解している担当職員が、1~2人の利用者に対して、アセスメントをしている。アセスメントの結果は、ケアプランに適切に活かされ、一定の期間で見直しを図っている。日々の関わりから、知り得た情報を職員間で共有し、ケアプランに活かしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録はきちんと記録している。情報は家族にも公開し、介護計画の見直しに活かされている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その方の身体状況・精神状態等に応じ、家族や入居者のニーズには、出来る限り協力する体制を取っている。（施設に個人的に整体師を呼ぶなど）</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・ボランティア・地元学校関係からの受入をし、警察・消防には認知症対応ということで、緊急事態の為にリスト作りをして頂き、協力体制を作っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>内科・皮膚科・精神科・耳鼻科・歯科の往診もあり、受診に行くことが難しい方も、適切な医療体制で臨んでいる。</p>	<p>過去の病歴などを踏まえ、利用時に家族と相談しながら、かかりつけ医を決めている。事業所として、協力医の往診、同一グループの看護師への相談など、適切な医療が受けられる体制にあり、緊急時の連絡体制も整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化にも、状況に応じて、訪問相談等、24時間体制で連携がとれる関係である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院3ヶ月までは退居の必要はなく、安心して過ごして頂ける。それ以上の入院の場合については、早期退院に向けての情報交換等、医療機関と話し合いを持っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族の希望で、看取りまでケアしている。家族と密に連絡を取り、家族もまめに面会に来られている。重症化した場合、終末期については、主治医と施設・家族で話し合いを持ち、三者で連携を保ち、方向性を同じくしている。</p>	<p>希望があれば、看取りをする方針である。必要時に「重度化した場合における看取りに係る指針」に準じて対応している。なお、医療施設同様の対応は難しいことを説明し、重度化や終末期には、主治医に意見を聞き、家族と話し合いを重ねている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故に備えて、緊急マニュアルをスタッフルームに掲示し、それに従い、落ち着いて対応するように伝達している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルの作成、消防計画による任務等の役割分担を明確にし、年二回の避難訓練を実施しているが、地域を交えての訓練はできていない。</p>	<p>ハザードマップ上、水害を受けやすい立地条件であることから、消防署職員立会のもと、昨年(H28.11)「津波想定避難訓練」を実施している。消防署が近く(車両で2~3分程度)であり、初期活動ができる環境である。訓練時には、防災ベルの音声などのこともあり、近隣住民への理解を求めている。</p>	<p>災害時には、事業所は防災の拠点となるため、日頃から地域住民との連携が不可欠である。①運営推進会議を通して、近隣住民との協力体制づくり②災害に備えて、同一グループで防災グッズの準備。③定期的に備蓄食などを食することで、防災意識が高まることを望みます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報には外に漏らさないことを徹底している。入居者に対しては、人として尊敬の念を忘れず、言葉かけや対応に配慮しているが、完璧とは言えず、カンファレンス等で、スタッフに向けて、注意している。	認知症ケア“ユマニチュード”（基本のケア）をもとに、利用者一人ひとりを尊重し、相手に温もりを感じる接し方を徹底している。ユニット目標“尊厳を守る声掛け（ちゃん呼びはしない）笑顔であいさつ”の方針により、十分気をつけた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活における希望等を尋ねたり、自己決定の出来る場を設けるなど、考慮し、配慮しているが、自分の思い・希望を表出することが出来にくい方もおり、検討課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間・就寝時間・その他日常の活動についても、まず、声かけにより入居者の意思を確認し、介助するように心がけている。一人ひとりのペースに合わせる事が基本ではあるが、つい々職員のペースに合わせていただいている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時の更衣は、利用者と相談しながら服装を決めたり、お化粧を日課としている方もいる。理容について2ヶ月に1度、訪問理容をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	手伝える方が限られているが、下ごしらえ・食器拭きなどは手分けして、職員と共に進んで日々の仕事として定着している。	家庭菜園で、茄子・オクラ・トマトなどを収穫し、食材に使用することもある。三食とも手作りであり、職員も利用者と一緒に、同じ食事をするようにしている。テーブルの配置や形態は、利用者の状況に応じて、柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの嗜好、食事量を把握し、配膳に工夫している。歯の状態、嚥下の難しい人には刻んだり、とろみをつけ食べやすいよう配慮している。水分補給は、食事以外の時にも、度々機会をつくり、水分量の確保に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導をしている。出来る所は自力で、出来ない所を援助している。義歯は就寝前に洗浄液につけ、清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりのパターンを把握し、なるべく失敗を減らし、トイレで排泄できるように声かけ誘導している。一人ひとりの能力に応じて、介助を行っている。	利用者個々のパターンを把握し、なるべくトイレ誘導を行っている。トイレは、1ユニット（定員9名）に3箇所あり、車いす利用者でも可能なスペースを確保している。食事の工夫や適切な水分補給、散歩、体操などを取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操・レクリエーション・散歩により、身体を動かす事、食事時、食間、入浴後の水分補給を心がけている。排便チェック表を作成し、個人の周期を把握した上で、トイレ誘導をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	個々の曜日は決めていないが、時間帯はほぼ決まっている。入浴時は職員との会話を楽しんでいる。	以前は、毎日実施していたが、ゆっくりと入浴できていない状況があり、それを受けて、週2回の入浴とし、本人に満足していただくことに心掛けた入浴方法へ切り替えた経緯がある。車いす利用の方でも、福祉機器（リフト、座シャワー、シャワーチェア）を活用し、湯船に浸かることを基本としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	睡眠パターンについては、職員の方で、ほぼ把握出来ている。昼夜逆転の傾向の人や、その他、夜間の様子については、申し送り等で職員間で情報を共有し、カンファレンスで話し合い、日中のあり方を検討し、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋に目を通し、把握している。服薬時は、日にちと名前の確認をし、誤薬の無いように徹底している。個々で、お薬手帳を持って、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーション、散歩等、声を出したり笑ったり、身体を動かしたりという活動を日課の中に取り入れるよう心がけている。又、洗濯物の手伝い、食後の片付け等、個々の役割を決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	向かいの公園へ、数人に分かれて出かけている。希望者は近くのお店に買い物に行ったり、ドライブに行ったりするが、行ける人が限られており、家族や地域の人に協力を得る事まではできていない。	事業所周辺が、散歩には適した立地であり、気候が良ければ散歩をしている。時に、外食や買い物などの外出を通して、地域の皆様と交流が図れるよう、機会づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持に関しては、トラブルの元になるので、入所時からお断りしている。しかし、買い物の楽しみを味わっていただく為に、事業所内でお店を開き、お金を使う事の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に使ってもらっている。個人的に携帯電話を預かったり、手紙のやり取りのお手伝いもしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天候の良いときは、なるべく自然の光や風が取り入れられるよう心がけている。リビングは、いつも季節感を感じられるよう配慮している。	日中は、リビングやソファで過ごす方が多く、午前中はレクリエーション活動に力を入れている。毎日の掃除により、心地よい環境である。利用者個々の居場所があり、職員も穏やかな対応に心掛け、一人ひとりが、心休まり我が家のように生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ほとんどの方が日中は、リビングやソファで過ごされているが、お部屋で過ごしたい方は、自由に一人の時間を楽しんでいる。友達関係の出来た方は、隣同士になれるよう、席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室とも、同じ造りになっているが、使い慣れた物を持ち込まれたり、仏壇、テレビを置いたり家族の写真を飾ったりして、その人らしい部屋となっている。	エアコン、ベッド、洋服ダンスは事業所で設置している。利用開始時に必要物品表を手渡し、使い慣れた寝具や家具などの生活必需品が持ち込まれている。本人が居心地よく生活していただけるように、本人や家族と相談しながら工夫している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	能力に応じて手すりを利用したり、歩行器や車椅子で移動されている。歩行、立ち上がりの不安定な方は、居室にも手すりや立ち上がりの為のポールも取り付けている。不安やパニックになる前に、声かけ、見守りを心がけている。日常行う行動については、判りやすい掲示、案内表示などに配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームすずらん

作成日 平成29年4月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時など不測の事態に対し、地域住民との協力体制が気薄である。	防災訓練等を近隣住民の皆様と共に実施する。	近隣の皆様に防災訓練実施の参加の呼びかけをする。	3か月以内
2	35	防災グッズの準備	備蓄食や救急グッズ、懐中電気等いつでも取り出されるよう設置する。	防災グッズの購入と設置場所を周知徹底する。	3か月以内
3	35	備蓄食を試食し防災意識の向上	備蓄食の購入、防災訓練時に試食し使用方法などの理解を深める。	防災訓練に避難場所での対応も組み込む。	6か月
4		パンフレットに痴呆状態との記述があった。	すぐに記述を訂正する。		即時
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。